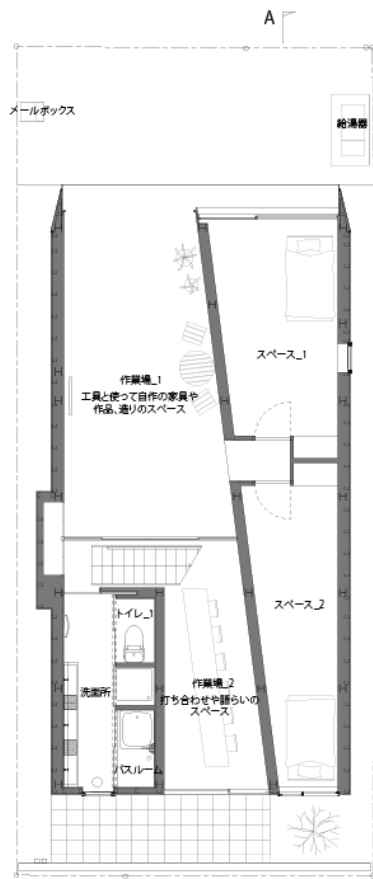
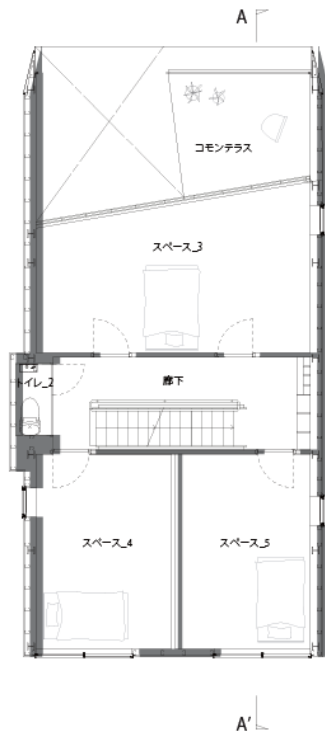


SHARE yaraicho

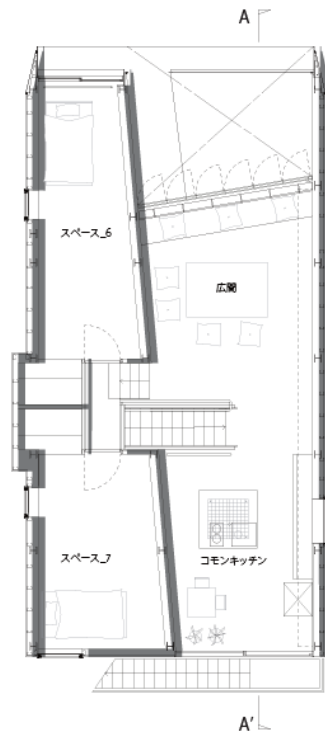
篠原聡子＋内村綾乃／空間研究所＋A studio



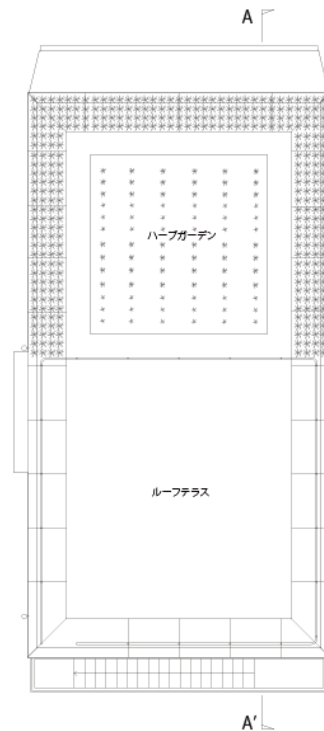
1階平面図



2階平面図



3階平面図



屋上平面図



シェアを建築化する

ワンルームでも家族用住居でもないオルタナティブ

単身世帯は全世帯数の1/3を超え、特に都市部では1/2に迫ろうとしている。人生が長くなり、価値観が多様化した現在、誰もが様々な形で一人で暮らす可能性がある。そうした多様化した単身世帯居住に対して、ワンルームでも、家族用住居でもない住まいのオルタナティブがもたらされる。同時に、親族や共同体のネットワークも縮退した現在、日常をささえる居住に関わるネットワークの再編が待たれる。そうした状況に対して、現在、着目されるはじめた血縁の家族によらない「シェア」居住は、ひとつの可能性を持つに違いない。

7つのユニットではなく、7人の住む家

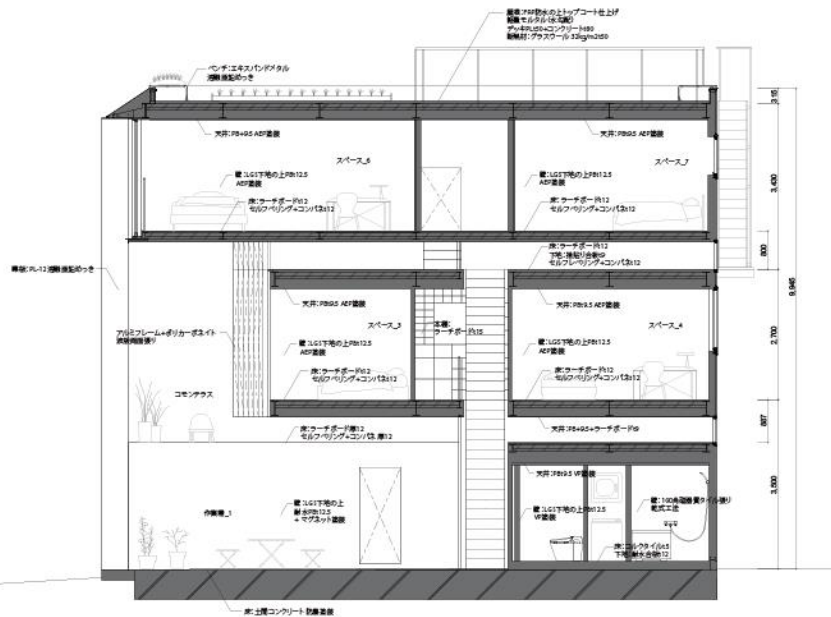
現在、リノベーションによるシェアハウスは、主としてその経済性から人気を集めているが、シェアを前提としてワンルームでも家族用住居でもない住まいをつくることしたら、一体何ができるか、そこに都市に住むことのダイナミズムを発見する契機があるのではないか、そうした問題意識がこのプロジェクトの根底にある。都心の住宅地にある128㎡のこの敷地に、もし30㎡のワンルームをつくることしたら、7室程度をいれたハウジングが可能であった。

しかし、128㎡しかない敷地に7つのバスルームと7つのキッチンをつくる不合理は、建設コストのみならず、何より空間の益しさとして立ち現れる。そこで、7つのユニットではなく、7人が住むための住宅として計画することとした。7人は、血縁者でないことを前提としたが、集住の単位としてやや大きめの家族のスケールでもあり、水回りやキッチンはワンセットをシェアすることとし、あまった容積と気積が新たな集住のデザインの契機となった。

大きな箱と小さな箱と隙間

幅10m、奥行12m、高さ10mの大きな箱の中に、個室と水回りのための4つの小さなボックスを垂直方向に60cmの隙間を開けて挿入した。その小さなボックスは、7人のプライバシーのある個室空間をつくることにも、その配置によっていくつか異なる形態のコンモンスペースをつくりだしている。箱間の60cmの隙間は、個室間のプライバシーを確保し、同時にこれらのコンモンスペースを緩くつないでいる。コンモンスペースに要求されるものは、単純ではないが、大きく分けて2つの機能がある。

それらは、「居住者同士が共同で使用する場所」と「この家が外部と接点をもつ場所」である。前者のためには、キッチンと広間を、後者のためには、エントランスを兼ねる作業場を留意した。とりわけ、こうした新しい形の集住体が一定の継続性をもち、その地域と繋がるためには外部との接点をもつ空間が重要であり、このプロジェクトでは土足で外部にも出入りし易い作業場を計画した。同時に、ここに入ると10mの吹き抜けを通して、大きい箱の全貌が理解できる構成となっている。



仮設的であることと未完であること、そして実験的であること

エントランスを兼ねる作業場は、テントで覆われ、半外部として計画されている。テントは、恒常的なファサードではないので、この場所の性質の変化によって変わる可能性もある。さらに、60cmの隙間は、収納やディスプレイスペースなど、居住者の住みこなしにゆだねられる部分である。ワークスペースでは、この隙間で使用できる収納ボックス、本棚やテーブルなど、順次家具が制作されており、この家全体が現在なお、未完であるともいえる。新しい血縁によらない家がどんな形でありえるかの実験は今だ継続中だが、建築のあり方はその可能性の一翼を担っているはずである。

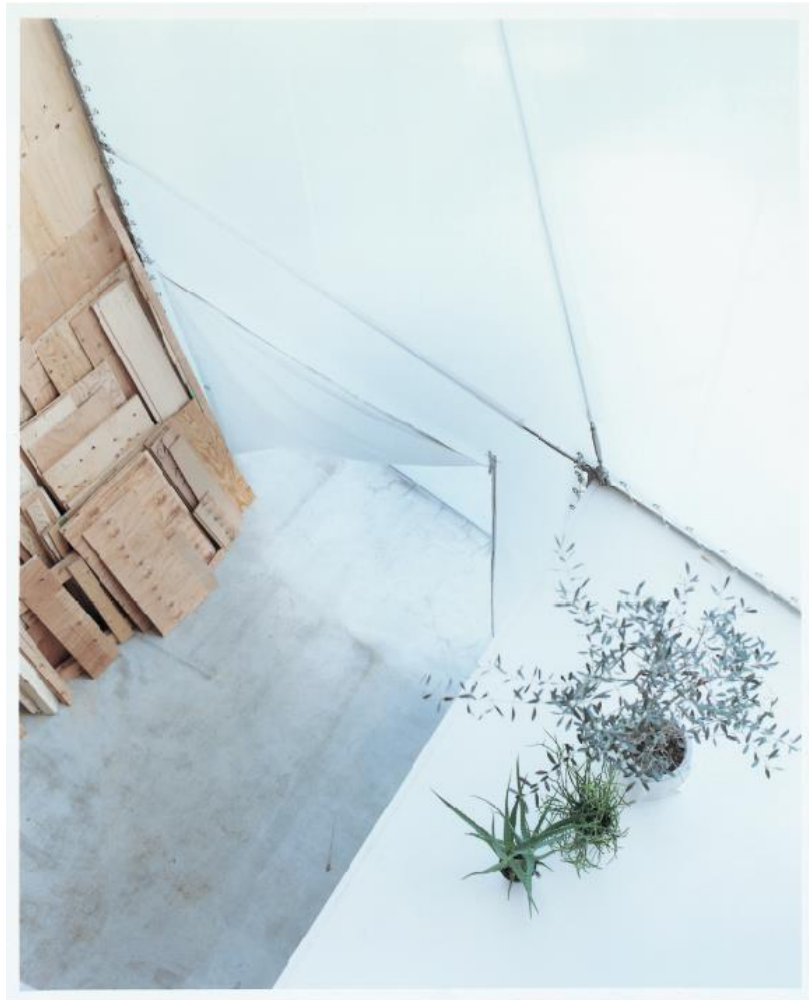
名称	SHARE yaraicho
所在地	東京都新宿区
主要用途	住宅
竣工年月	2012年3月
建築	空間研究所+A studio
構造	オーノJAPAN
建主	個人
敷地面積	128.60㎡ (38.90坪)
建築面積	76.68㎡ (23.19坪)
延床面積	184.27㎡ (55.74坪)
	1階63.73㎡/2階56.96㎡/3階63.58㎡
階数	地上3階



作業場_1より見る。床はコンクリート土間仕上。ここで使用される家具などを製作する。奥は作業場_2



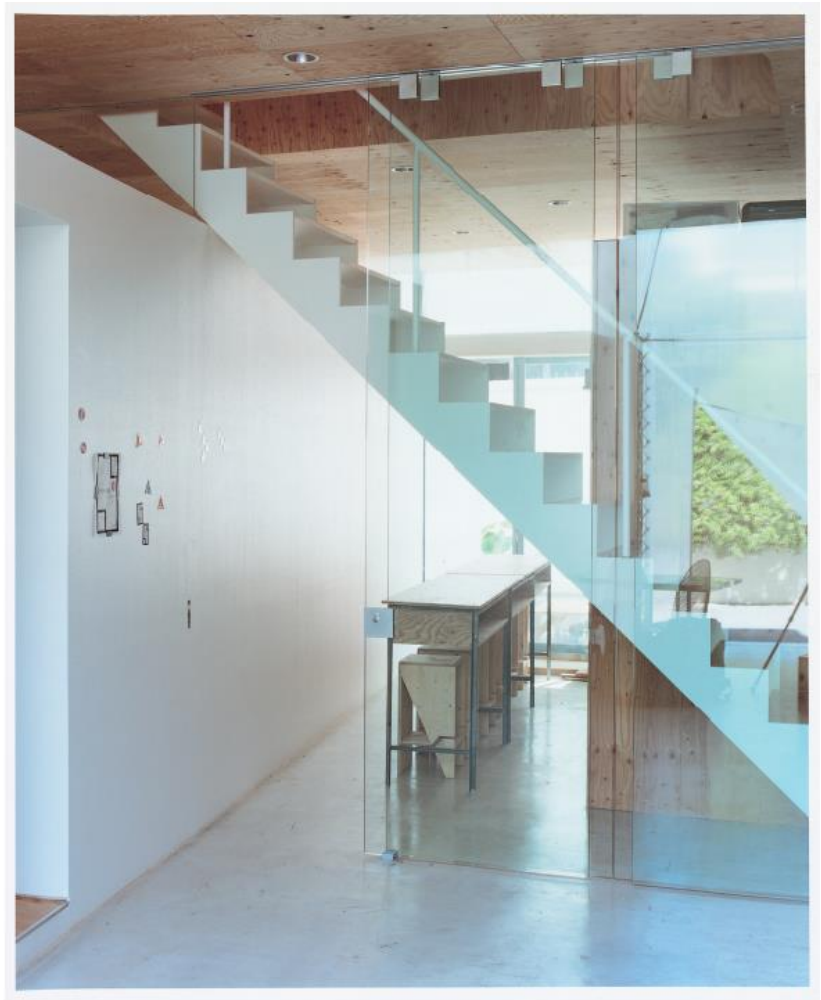
北側立面



コモンテラス見下るし。



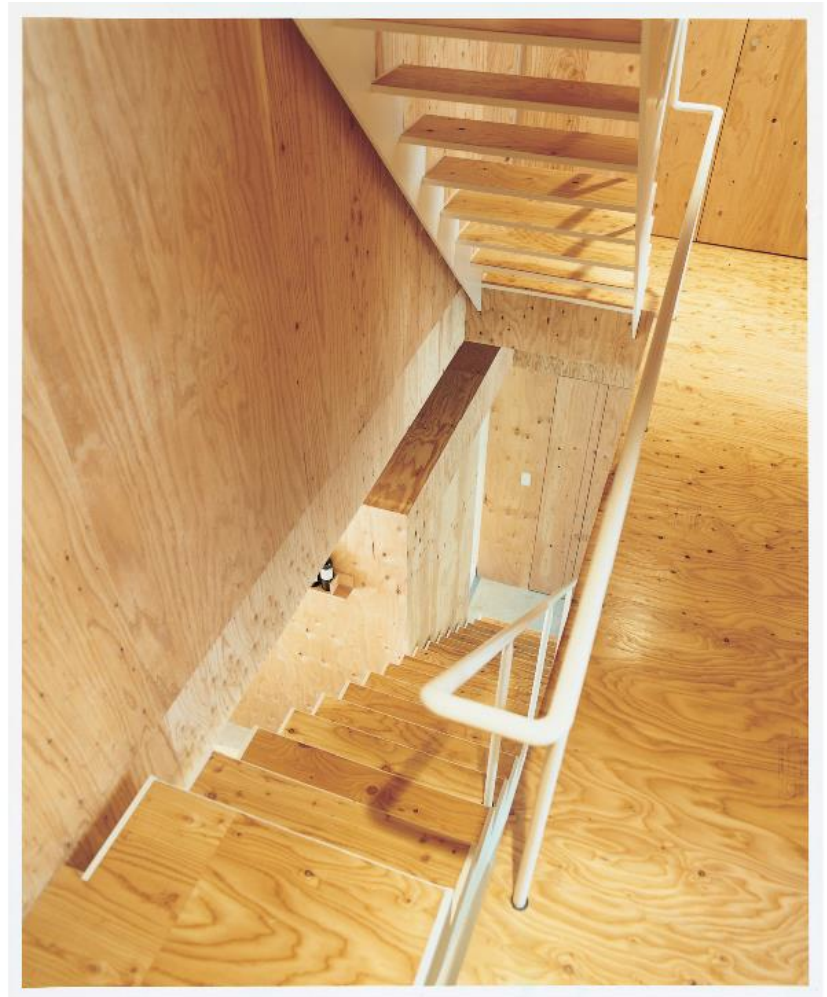
作業場_1より見る。ここで家具製作を行うほか、パーティーなどにも使われる。



作業場_2. 机と椅子は、住人による製作。



2階廊下。奥に見える本棚は住人たちが作業場で製作したもの。



2階廊下から1階の見下ろし。



スペース_3. ここからコモンテラスへ出られる。



3階コモンキッチン。右のスペース_6, 7は床から浮いている。



3階広間を見る。テーブルは住人の製作。